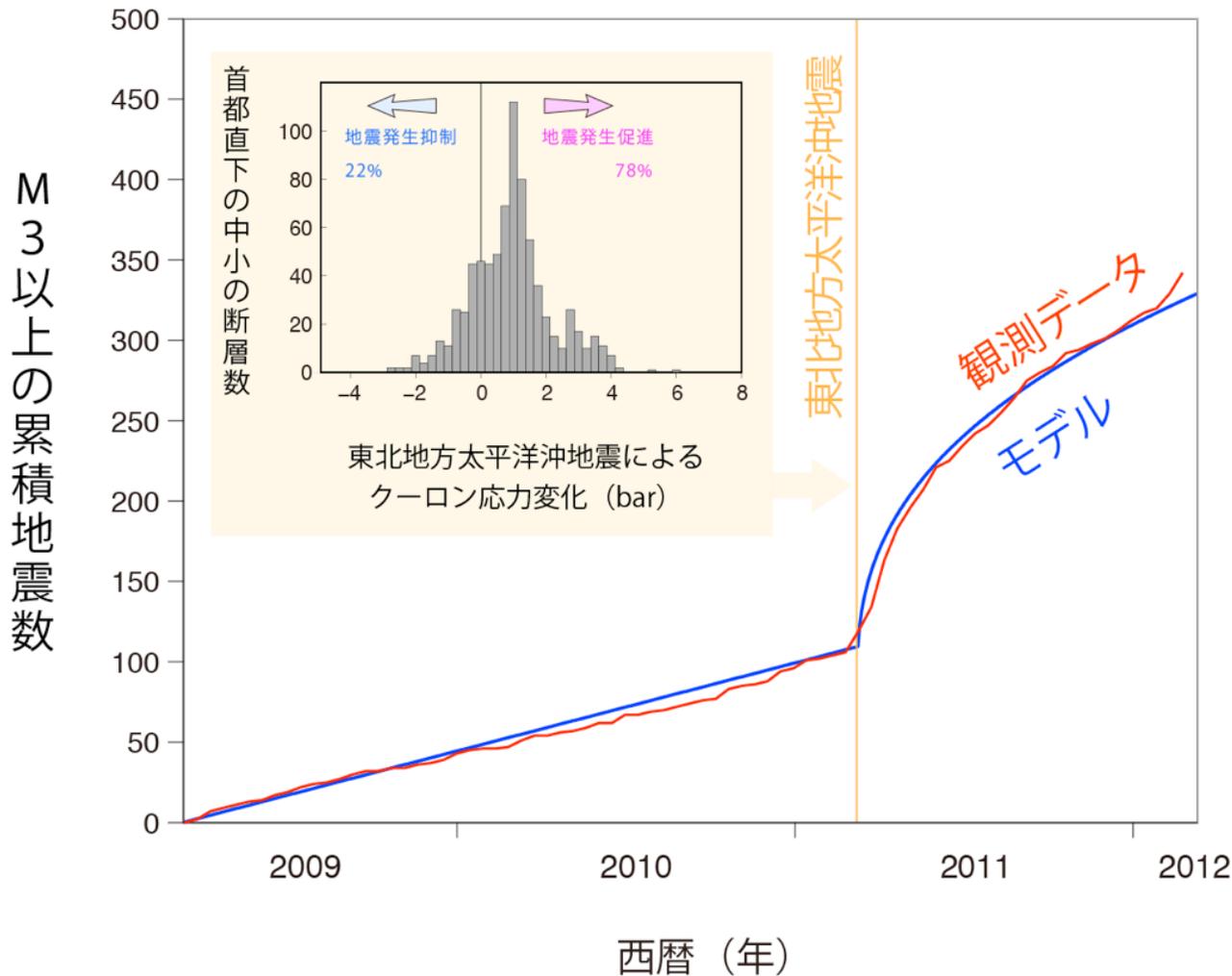
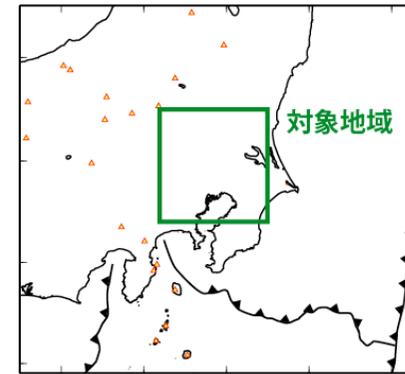
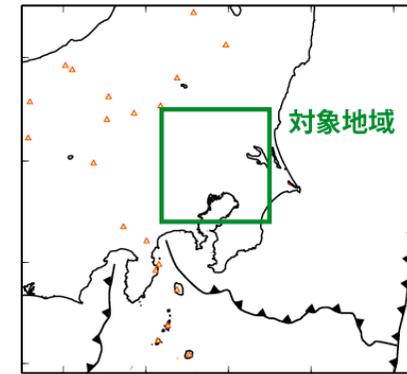


東北沖地震による首都直下への応力伝播と 誘発地震活動の減衰モデル



直下に潜在する中小断層群へ平均 1 bar (0.1 MPa) 応力が伝播。一般的モデルパラメータ値を使って、その後の地震発生レートの時系列を再現することもできる。(余効変動の効果は必ずしも必要ではない)

統計および応力伝播モデルによる 「首都直下」M_≥7.0地震発生確率



	観測統計による確率 (東北沖地震なし)		観測統計による確率 (東北沖地震あり)			応力伝播モデルによる確率		
	確率 (%)	地震数	確率 (%)	地震数	利得(%)	確率 (%)	地震数	利得(%)
1年間	(2012.03.11-2013.03.11)							
b値 0.7	8	0.083	15	0.163	188	12	0.126	148
b値 0.8	3	0.030	6	0.062	200	5	0.050	163
b値 0.9	1	0.014	3	0.026	186	2	0.020	141
5年間	(2012.03.11-2017.03.11)							
b値 0.7	35	0.434	41	0.528	116	39	0.494	111
b値 0.8	16	0.172	19	0.211	120	18	0.197	113
b値 0.9	7	0.068	8	0.083	121	8	0.078	114

結局，地震サイズ分布をコントロールするb値の見積もりに左右される